



平成23年10月4日

各位

会社名 株式会社 セキド  
代表者名 代表取締役社長 関戸 薫子  
(コード番号 9878 東証第二部)  
問合せ先 取締役執行役員管理部長 弓削 英昭  
(TEL. 03-6279-0562)

## 業績予想との差異に関するお知らせ

平成23年4月15日に公表した平成24年2月期 第2四半期累計期間の業績予想との差異について下記のとおりお知らせいたします。

記

### ●業績予想との差異について

平成24年2月期第2四半期(累計)個別業績予想数値との差異 (平成23年2月21日～平成23年8月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,700	△71	△96	△145	△10.23
今回発表実績(B)	8,965	△282	△304	△396	△27.93
増減額(B-A)	△1,735	△211	△208	△251	
増減率(%)	△16.2	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年2月期第2四半期)	9,951	△193	△201	△231	△16.34

### 差異の理由

当第2四半期累計期間において、東日本大震災及び原発事故の影響下、当社は、売上と利益の確保に向けた営業戦略への取り組みを行ってまいりました。ファッション部門では、5月に出店したGINZA LoveLoveを旗艦店とするインターネットショップも含むファッション部門全体のブランディング戦略の強化に努めました。また、家電部門では7月に地域のお客様に省エネ家電を提案する新規店舗を出店し、震災と計画停電の影響等で減少した売上高の確保に努めました。四半期前半は目前に迫った完全地デジ化に向けた薄型テレビの駆け込み需要に加え、電力不足によるお客様の省エネ志向を反映し、高付加価値商品の販売が好調に推移いたしました。後半は最需要期の台風直撃と冷夏の影響でエアコンの販売が伸びず、四半期全体としては苦戦いたしました。

利益面では、携帯端末を利用する新顧客管理システム(LPCモバイル)への移行により、広告宣伝費(ポイント引当金繰入額を含む。)の削減を行なうなど、販売管理費の抑制に努めました。なお、特別損失としてシステム移行に伴う旧システム関連の固定資産除売却損10百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額54百万円などを計上しております。

これらの結果、売上高は8,965百万円(前年同四半期比9.9%減)、営業損失は282百万円(前年同四半期は193百万円の営業損失)、経常損失は304百万円(前年同四半期は201百万円の経常損失)、四半期純損失は396百万円(前年同四半期は231百万円の四半期純損失)となりました。

通期の業績予想につきましては修正しておりません。当社の業績は第2四半期並びに第4四半期会計期間のウェートが高くなっております。引き続き厳しい環境が続くものと推測されますが、セキドとラブラブのお客様ひとり一人のニーズに応えられるきめの細かな販促と接客を徹底し、上半期のマイナスを取戻し、通期業績の黒字を確保してまいり所存であります。

なお、平成23年4月15日に公表した配当予想についても変更はありません。

以上